



校長通信

空の飛び方

こうがくじしゅう
「好学時習」

本校の校訓の一つである「好学時習」は、古代中国の思想家孔子の言行を記録した『論語』の一節「学び時にこれを習う、またよろこばしからずや」に起因しています。これは、学んだことを反復練習しているうちに、それが自然と自分のものになっていく、そんな時はうれしい」という意味です。学ぶことが好きで、学んだことを復習するからこそ力になる、これが「好学時習」ということです。

35年前の創立期に作られた校友歌の中に「われ顔回がんかいに 及ばねど 夙夜黽勉しゅくやびんべん これ我が努め 理想は高し 西高生」というフレーズがあります。顔回というのは、孔子の弟子の一人のことです。『論語』の中で、孔子は「顔回なる者がありました。学を好みました。怒りにまかせて八つ当たりはせず、過ちは二度と繰り返しません。不幸にも短命で死にました。今や顔回はいません。私は顔回ほど学問を好む者を未だに聞いたことがありません」と言って、顔回のことを褒め称えています。また「夙夜黽勉」というのは、朝から夜遅くまで勉強に明け暮れるという意味です。つまり、歌の意味は、「顔回には及ばなくても、大きな志を持って朝から晩まで勉強に励むことが西高生の任務である」ということになります。

創立から35年の時を経ても本校の生徒たちの勉強に向かう姿勢は変わっていません。早朝や放課後のあちらこちらで自学自習する生徒たちの姿を見ることができます。とりわけ人気が高い場所は職員室前の廊下に設けられている自習スペースです。何しろ、分からないところあれば、すぐに質問できるので連日大盛況です。また、放課後の教室では、勉強会が開かれ、「分かるまで徹底的に質問する」という心意気で先生を質問攻めにしている生徒たちの姿をよく見かけます。先生方も懇切丁寧に応えています。学ぶことに貪欲な生徒たちの姿は、「好学時習」を体現しています。

一般に勉強ができるかどうかは、「能力×気力×勉強法」のかけ算であると言われます。能力は人並みの「1」しかなくても気力が「2」あれば、かけ算で全体を2倍にすることだってできます。逆に能力や気力が十分にあっても勉強法が間違っていて「0」であったりすると、全体でも「0」になってしまいます。学力をつけるためには、正しい方法で、十分な量なされた勉強が必要であり、先生方は、正しい勉強法へ導くための案内人でもあります。学問は一朝一夕で大成するものではありません。時間がかかるということは喜ぶべきことです。時間がかかるからこそ、大きな自分に成長し、大きな夢を実現できるのです。西高生（今は各西生ということが多いのかもしれませんが）のこの1年間の頑張りに期待します。



職員室前の廊下で自学自習する生徒たち



教える側も学ぶ側も必死の勉強会